

埋文

とやま

Toyama Prefectural Center for Archaeological Operations

2024.3.29

VOL.

166



小竹貝塚出土品（富山市呉羽）
《用途不明鹿角製品》

写真のものは、すべてニホンジカの角で、表面が磨かれています。用途はわかっていません。右上の大きい2つは、長さが30cm前後で、縦に溝が彫られています。権威を象徴する笏しやくのように使ったのでしょうか、それとも更に小さな道具やアクセサリをつくるために、とっておいたものかもしれません。

とっておき埋文講座①●国営農地整備事業の試掘調査
②●富山の古墳

Center Flash●令和6年度 展示・主催事業紹介
古写真発掘！●安田城跡(国指定史跡) 富山市婦中町安田

富山県埋蔵文化財センター

国営農地整備事業の試掘調査

とっておき埋文講座①

はじめに

富山県では、水田の大区画化や排水不良の解消などの基盤整備や、地域の活性化を図るため「農地整備事業（ほ場整備）」が進められています。なかでも、富山市水橋地区周辺では、県営事業と並行して国営事業が推し進められています。

こうしたほ場整備の工事に先立ち、県教育委員会では平成29年度から試掘調査を行い、水田の下に眠っている遺跡の状況を確認し、遺跡が工事で破壊されることのないよう調整を行っています。

今年度は水橋的場遺跡①、中野遺跡②、水橋上砂子坂・下砂子坂遺跡③、砂子坂遺跡④、石仏遺跡⑤、大永田西遺跡⑥の6遺跡で、合計197ヶ所のトレンチを設定し、試掘調査を行いました。（番号は地図中の番号）

7年目となる今年度で常願寺川に近いエリアの試掘調査はほぼ終わり、調査対象地は東側の上市川左岸エリアに移っていきます。今回調査をした遺跡のうち、常願寺川右岸の水橋三郷地区に在る2つの遺跡について紹介します。



調査前の遺跡 遠くに立山が見渡せませす



試掘調査した水橋地区の遺跡

昔のヒトが住む場所は？

水橋的場遺跡

富山市水橋的場地内に所在し、国道415号線沿いの水田地帯に広がる遺跡です。調査対象地は遺跡全域にわたり、試掘溝（トレンチ）35ヶ所を設定し、調査対象地南西側で穴や溝などを確認しました。

遺跡中心部に現在の的場集落が位置していますが、調査結果も遺跡中心に近く、高い場所では穴や溝など昔の人々の生活のあとが見つかりました。現在の地表面から浅いところでは20～40cmで穴を確認できました。

一方、中心を離れる南北両側では、黒い粘土質の土が厚く、川跡や沼地状の地形が広がっていたことがわかりました。現在は水田となり、平坦に見えますが、調査によって昔の地形を知ることができます。昔の人々は微高地など、より安定した場所にムラを作り、生活していたことがわかります。



重機でひとかき、穴を確認しました



柱穴でしょうか？



掘っても、黒い粘土が続きます・・・



沼地？川跡？ 底が見えません

弥生のムラ？

中野遺跡

富山市水橋の場・小路^{しやうじ}地内、国道8号線の北側に位置する遺跡で、富山市立三成^{さんじやう}小学校南東側にあります。遺跡南側は神保長職^{じんぼながもと}を城主とする鶯野城^{うぐいすのじやう}の比定地を含んでいます。

トレンチ42ヶ所を設定し、調査対象地のほぼ全域で穴や溝を確認しました。重機を使い、少しずつ掘り下げながら昔の生活面を確認していくのですが、段差が大きい場所や農道がせまく重機が入れない場所は人の手で掘り下げ作業を行います。中野遺跡では人力で確認した箇所が複数ありましたが、こうした中で遺構や遺物が見つかるに苦労した分、調査した甲斐を痛感します。

調査対象地南側は鶯野城跡が含まれることから中世の遺構や遺物が期待されましたが、弥生土器や炭を含む穴や溝を確認しました。広く外反した口縁部を櫛^{くしがきもん}描文やキザミで飾った壺や甕など弥生時代中期の土器が見つかり、周辺に弥生時代のムラがあったことがわかりました。



重機で掘り下げ確認します



重機が入れない場所は人力で・・・



炭や土器を含む穴を確認しました



弥生土器の出土状況



穴の上面で見つかりました

おわりに

試掘調査は遺跡全体の限られた部分を掘るため、そこからわかることも、一つ一つは小さなものです。ジグソーパズルのピースをつなげるように、わずかな遺物や遺構でも、積み重ねることによってその地域の歴史をひもとく貴重な資料となります。今後もパズルの「ピース」を集め、地域の歴史を守り、伝えていくために蓄えていきたいと思ひます。

(金三津道子)



中野遺跡で出土した弥生土器

富山の古墳

とっておき埋文講座②

富山大学学術研究部人文科学系 教授 高橋 浩二

はじめに

古墳時代は、3世紀後半でも半ば近くから西暦600年ぐらいまでの約350年間続いた時代です。初めの頃と終わりの頃では社会や文化の特質などに違いが見られるため、前期・中期・後期とそれぞれ100年程度の三つの段階に分けて移り変わりを説明します。

これから古墳出土の様々な副葬品が出てきますが、副葬品から一体どういうことが分かるのか。大きく分けて二つのことが言えます。

一つ目は、副葬品の形態や製作技術、組み合わせの変化から、古墳の築造された時期が分かります。ただ注意が必要なのは、伝世品が見られることです。作られてすぐ古墳に納められる場合もあれば、数十年、数百年経ってからの場合も考えられ、古い時期の古墳と間違えてしまう可能性があります。

二つ目は、被葬者の階層的な位置を表していること。また、他地域からもたらされた物は、それらの地域の勢力との通交関係が推定できることです。さらに被葬者の職掌や、まれですが性別が推定できることもあります。

古墳時代前期の古墳

一つ目が、氷見市の阿尾島田^{あおしまだ}A1号墳です。この古墳は、富山大学で学生と一緒に発掘調査をしました。時期は4世紀中頃、規模は約70mで、県内で2番目の大きさ、前方後円墳では県内最大の古墳です。埋葬施設は2基見つかっていますが、古墳の主は後円部中央の規模の大きな埋葬施設に葬られていたと判断できます。面白いのは割竹形木棺が非常に大型で、北枕で埋葬されたことです。これは畿内の古墳の埋葬方法と類似するもので、被葬者と畿内政権との近い関係が推定できます。

木棺の長さは2mもあれば十分なはずですが、ここでは7m近くありました。長さが、葬られた人物のステータスを



阿尾島田A1号墳
長大な割竹形木棺の跡

表しているのでしょう。

副葬品は、頭の上と足元の2箇所に分けて置かれていました。刀剣類は、人体の横に切先を足元側に向けて並べるのが一般的ですが、頭部側のものは切先を頭の方へ向け横一直線に並べていました。独自色がうかがえます。槍や剣で面白いのは、その上面にだけ織物が付着していたことです。布で包んでいたのではなく、副葬品を置いた後、織物をかぶせていたことがわかります。このような例はあまりありません。槍は長い柄を付け、離れたところから突き刺す道具ですが、柄のほとんどを切り離し、身と茎部分^{なかご}だけを副葬していました。この槍は柄の先端部が糸巻き頂点型と分類されるもので、畿内政権からの配布品と思われる。長剣は長さの割に幅が狭いもので、このタイプは弥生時代に認められ、伝世したのかもしれない。それから^{のみ}鑿。一見、



阿尾島田A1号墳出土品

斧に似ていますが、幅が狭く、畿内の古墳にはあまり類例がないものです。

鉄鏃は5点ほど出土していて、畿内の古墳でよく見る形のもの、畿内ではあまり認められない透かし孔があくものがありました。透かし孔入りのは弥生時代の伝世品、あるいは畿内以外の地域から運ばれてきた可能性が考えられます。玉類で珍しいのは、金属の錫製の玉^{すず}です。丹後半島の古墳に類例があり、日本海側の地域などからもたらされたものと考えられます。

これらのことから、この古墳に葬られた人物は畿内政権、さらには日本海側や北部九州の有力者など、多方面と通交関係を結んでいたと思われる。

二つ目は、同じ氷見市にある国指定史跡^{やないだめのおやま}の柳田布尾山古墳です。107.5mの大きさがあり、富山県で一番大きな古墳です。残念ながら盗掘されていて、副葬品が一切わかりません。ただし規模からみると、阿尾島田A1号墳よりも大きく、より多くの副葬品を納めていたと判断できます。

三つ目の古墳が、高岡市の桜谷^{さくらだに}2号墳です。隣に1号墳があり、両方とも国指定の史跡になっています。大正12年、耕作中^{いしくしろ ぼうすいしや}に石釧や紡錘車形石製品、管玉などが見つかりました。石釧は5点出土していて、まとまった数としては日本海側において最も東で出土したものです。石材は石川県の片山津地方などで採れる緑色凝灰岩を用いています。石釧の分布を全国的に見ると、畿内の古墳からまとまった数が出土していて、地方にいくにしたがって分布がまばらになることから、原産地周辺で製作されたものがいったん畿内政権の元に運ばれた後、各地の有力者へ配布されたと考えられています。

管玉も6点ほど出土していますが、軟質の緑色凝灰岩で作られていて、やや新しい時期のものと考えられます。柳田布尾山古墳の次の段階の有力者の古墳であろうと考えています。

古墳時代中期の古墳

小矢部市にある谷内21号墳は、谷内古墳群という、前期の段階から連続と墳丘が作り続けられている中にあり、代々の有力者の古墳と考えることができます。大きさは30mほどで、中規模の円墳です。しかし埋葬施設は10mほどの長大な割竹形木棺でした。こうしたところにも畿内の古墳との類似性が見られます。

ここには多数の武器・武具が副葬されていました。鉄剣が2点出土し、剣と剣の間に少し空間があって、そこに人体を埋葬していたと考えられます。短甲は2領あります。肩甲や頸甲、草摺などもあり、それらがセットで副葬されているのが重要なところです。

短甲は、長方板革綴短甲という古い段階のものになります。やはり古手の三角板革綴短甲もあります。短甲は胴を、頸甲は頸、肩甲は肩の部分を守るものになります。草摺は腰のところを守るものです。古墳時代中期の短甲の作り方は、まず帯金という細長い板状のもので枠組みを作ります。そして内側から鉄の板を一枚ずつ貼り合わせ、革紐で鉄板を綴じ合わせていきます。鉄板は古い段階は長方板、やや新しくなると三角形の板、やがて横短板になるという変化が見られます。綴じ方も古い段階は革綴じ、新しい段階になると鋳留めに変化します。鋳留めは古墳時代中期の中頃から、また掛甲という形式のものは、主に中期の末から後期の段階にかけて認められます。

革製の盾も出ています。革に塗られた黒漆の膜部分が残っていたことから盾だとわかります。他にも刀や鉄鏃など武器・武具が多数副葬されていたため、武人が葬られていたと思われ、被葬者は男性だったのかもしれませんが。

谷内21号墳の副葬品の大きな特徴は、短甲が2領あることです。長方板革綴と三角板革綴の、形式の違う短甲が両方出ています。北陸の甲冑出土古墳は約30基ありますが、その中でも最古級と言えるような古い段階の短甲です。このような古手の短甲を両方もつ古墳は、全国的にも珍しい。また、頸甲と肩甲、草摺の付属具がセットで伴

うことも希少です。刀剣類をはじめとした副葬品の種類や数も多く、格の違いを表していると思われます。古墳の規模はけっして大きくありませんが、軍事に關与し、畿内政權に認められた、有力な人物が埋葬された古墳と考えることができます。

氷見市のイヨダノヤマ3号墳には横短板鋳留短甲が副葬されていました。実物をみると多数の鋳で細かく鉄板を留めていることがわかります。古墳の築造時期は5世紀の後半で、規模は20mほどですが、ここにも畿内政權に認められた武人が埋葬されていたと考えられます。

続いて築かれたのが氷見市の加納南9号墳です。5世紀末に築かれた古墳で、19.3mの規模です。割竹形木棺もそれほど大きくありませんが、副葬品が豊富で、特に掛甲や多数の武器類の出土が特筆されます。

注目すべきは、袋部の断面が六角形になった鉄鏃です。鉄鏃は袋部に木の柄を差し込んで、槍のように突き刺す道具ですが、柄の部分は外して副葬されています。袋部の断面はたいてい円形ですが、他に六角形など多角形のものがあります。朝鮮半島の古墳のものとも共通するので、この地からもたらされた可能性があります。

さらにまた、青銅製の三輪玉や鉄製の鑷子があります。これらは鉄刀の柄の近くから確認されていて、鉄刀の装飾である革製品に付属するものと考えられています。鑷子というのはこの時代のピンセットで、腰からぶら下げていたと考えられている、県内では非常に珍しいものです。青銅製の三輪玉も、県内ではこの古墳からしか出土していません。大刀の装飾品として付けられていたと思います。

加納南9号墳の特筆すべき点は、掛甲が出土していることです。これは県内で唯一の例です。図1の変遷図

で、最下段に示したのが掛甲です。加納南9号墳のものは鉄製と革製の小札を組み合わせて作られています。短甲は鉄の板を貼り合わせて作るので重く、また鉄板が大きくて動きにくい。これを軽量化、かつ動きやすいようにしたのが掛甲です。鉄の部分をなるべく少なくし、個々の鉄板も小札状に小さくすることで、より細かな動きができるようにしています。したがって掛甲の方が新技術で作られている、時期的に新しい段階の副葬品ということになります。近隣の出土例では、福井県敦賀市にある向山1号墳があります。60mの円墳で、金メッキを施した金銅製品や、甲冑も2領納められていて、誰もが認める格の高い有力者の古墳です。

加納南9号墳からは、他にも県内では少数例の須恵器の筒形器台、馬具の轡が出土しています。筒形器台は長い脚部が付いていて、壺などをのせる台として使われるものです。轡は鉄製で、馬の口にかませて動きを制御する用具です。

後期に登場する朝日長山古墳の一段階前の、氷見地域の有力者の古墳で、武器や武具がたくさん出土していることから、軍事に關与し、また各地の勢力とも関係するような人物が埋葬されていたと考えることができます。

古墳時代後期の古墳

古墳時代中期には、なぜか前方後円墳がほとんど築かれなくなり、墳形が円墳に変わってしまいましたが、後期の段階あるいは中期末の段階になると前

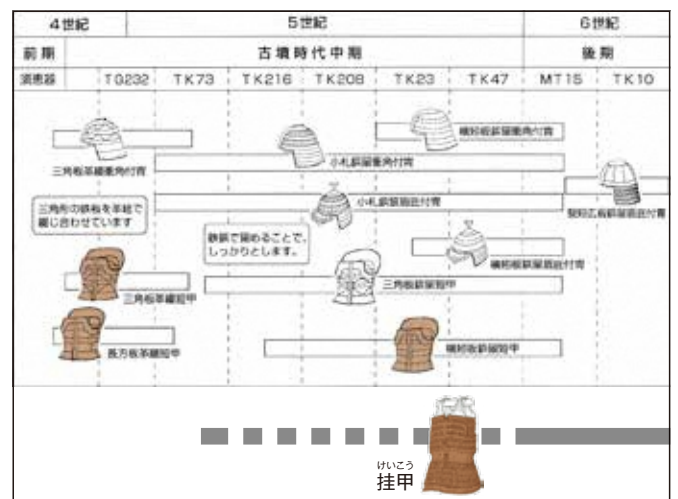


図1 鉄製甲冑の変遷

田中晋作1991「武具」『古墳時代の研究』第8巻古墳II副葬品、雄山閣を引用した近つ飛鳥博物館2009「百舌鳥・古市大古墳群展」解説シートを一部改変

方後円墳が復活します。そのうちのひとつが氷見市の朝日長山古墳です。大きさがこそ43mほどですが、後期のものとしては県内最大の古墳です。

丘陵上に作られた古墳で、土取り工事中に石室が確認され、緊急で発掘調査が行われました。石室の天井や側壁、礫を敷いた床面は、赤色のベンガラで塗られていたと報告されています。

副葬品は多数あり、刀や剣が6点ほど出ています。切先の向きがバラバラで、本来一対の馬具の杏葉も離れた箇所に置かれていたことなどから、複数の人物が埋葬されていたと考えられます。例えば一人目の埋葬時には刀の切先を南西側に向けたが、二人目の時には逆方向に置く、また埋葬の妨げになる場合は以前の埋葬時の副葬品を移動するなどされたのではないのでしょうか。中期までの埋葬の方法は主に墳丘を築いた後、竪穴を掘って木棺に人体を埋葬した後、盛土をかぶせて永久に密閉します。この場合、後から亡くなった人は、別に埋葬施設をつくって埋葬することになる。しかし横穴式石室ならば、後から追葬が可能です。朝日長山古墳は、この横穴式石室であり、かつ北部九州に源流をもち日本海側に多く認められる、竪穴系横口式石室というものだったと考えられています。

また、県内で2古墳にしか見られない埴輪が出ています。他に杏葉、金銅製の冠帽や胡籙などがあります。杏葉は馬を飾る馬具です。鉄で作られ、表面に金メッキを施した金銅製で、作られた当時は金色に輝いていました。また、馬の鞍金具である鞍の座金具も、やはり鉄地金銅製です。胡籙は本体が革で作られ、鉄地金銅製の金具が取り付けられていました。

金銅製の冠帽は、後頭部の部分を復元すると、長く曲がりくねった鳥の翼状の装飾が付いていたと考えられています。朝鮮半島にあった国の一つ、加耶の碓深堤方A号墳という5世紀第4四半期の古墳からも類似品が出土しているため、朝日長山古墳には畿内政権にも認められ、さらに朝鮮半島の有力者などとも関係をもつような人物が埋葬されていたのではないかと考えることができます。

まとめ

図2に古墳の編年を示しました。青枠のものが、今回紹介した古墳です。

図を見ると、大型の古墳、副葬品が豊富で重要な古墳は、突如出現するが代々と続かず、築造が数代でストップするパターンが多く見られます。長くても2~3代しか続きません。例えば小矢部地域の谷内16号墳と関野1号墳、呉羽地域の勅使塚古墳と王塚古墳が挙げられます。単なる内部発展で勢力が成長したならこのようにはならないでしょう。内部発展で勢力が成長したならば、古墳の規模も徐々に大型化していき、長期間続いてしかるべきと考えられますが、そうはなっていません。

ならば、有力者の古墳が突如出現する背景には、外部勢力の後ろ盾を得ることで勢力が急成長したことが考えられるのではないのでしょうか。今回取り上げた古墳は、いずれも畿内政権や日本海側の地域、朝鮮半島の勢力などとの関係が推定できるものです。

立山町の稚児塚古墳も、埋葬施設は未調査で副葬品は確認されていませんが、この代表例になります。中期古墳なので円墳ですが、県内最大級の46mの規模です。周濠や周堤帯があるこ

と、2段築成というのも富山県では珍しい。葺石も県内では唯一の例です。畿内にはこれらをそなえる古墳が多くあるので、背景には畿内政権との関係が考えられます。畿内政権の後ろ盾を得ることによって突然力もち始める。ただし外部勢力のバックアップが得られても、それが突然断たれるということもあります。そうなると途端に力を失う。その一方で隣接地域の有力者が、ある地域の勢力と関係を結ぶことで突然力もち始める。図2のように、突如大型や副葬品を多数もつ古墳が出現し、また突然築造が途絶える背景としてこのようなことを考えています。

つまり、この時代の地域勢力というのは、まだまだ存立基盤が安定していませんでした。しかしこれは富山だけではなく石川もそうですし、福井でもある時期にはそのようになっていく。全国的にも多くの地域に当てはまることだと思います。言い換えれば、この時代は下剋上の世でもあり、急激に力もち始め勢力が急成長する時もある。一時的な成長で終わってしまい代々引き継がれない場合もある。そういう時代だったのではないかと思います。

(令和5年11月12日

第4回 県民考古学講座)

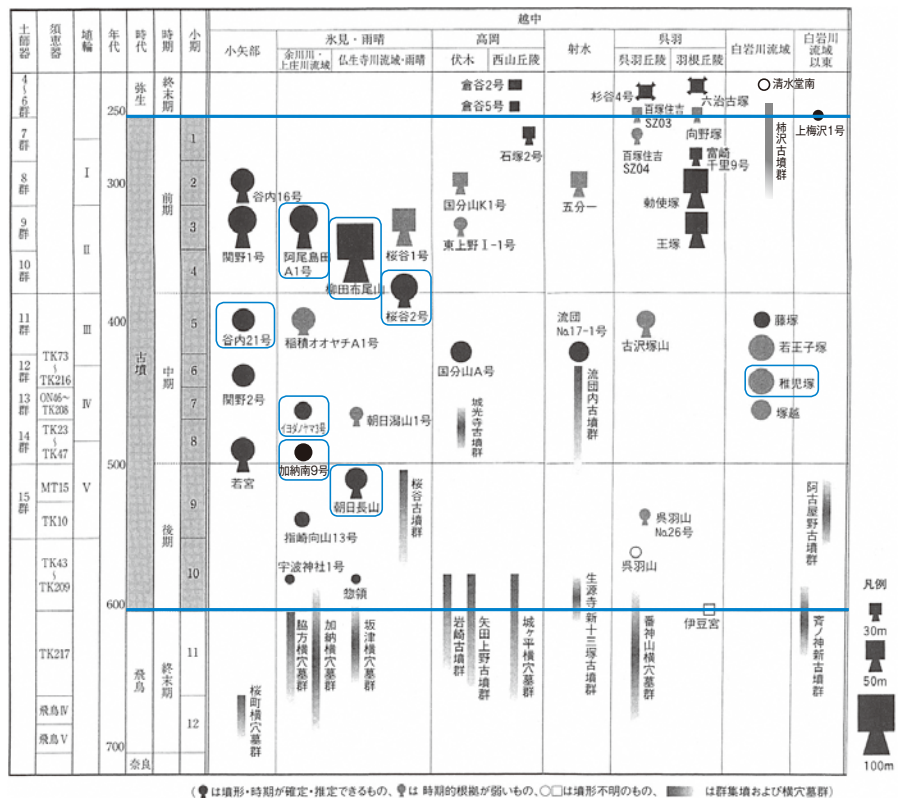


図2 富山における古墳の編年

高橋浩二2007『富山の古墳—氷見・雨晴の首長と日本海—』を一部改変

展示室

企画展「見て、知って! とやまヒストリー 2024」

令和6年4月19日(金)～9月23日(日) 休

富山県の旧石器時代から近現代までの通史について、県内各地で発掘調査された出土品を通して分かりやすく紹介します。

展示を見て楽しく歴史を学びましょう。社会科の学習にもご活用ください。



土偶【長山遺跡】



管玉・勾玉
【下老子笹川遺跡】



小型仿製鏡
【中小泉遺跡】

特別展「と・YAMATAI 国 (仮)」

令和6年10月4日(金)～令和7年1月23日(木)

富山県内の弥生時代の資料から、弥生時代の富山の様子や、人々の暮らしについて紹介します。

ミニ企画

「市町村連携発掘速報展」

「春の虫干会^{むしぼしえ}—重要文化財の風通し—」

令和7年2月1日(土)～4月3日(木) 予定

県内で近年実施した発掘調査の出土品や研究成果を展示します。

また、当センターが所蔵する国重要文化財「境A遺跡出土品」や登録有形文化財などの定期点検を兼ねて、風通しの様子を公開します。



縄文土器【境A遺跡】

収蔵 展示室

常設展示「小竹貝塚展」

日本海側最大級の貝塚で、縄文時代前期という古い時代の埋葬人骨が、91体出土しました。土器や石器のほか、木器や骨角器など多くの出土品を展示しています。併せて平成30年度から開始した「MAIBUN 小竹貝塚研究プロジェクト」の最新成果も公開しています。



骨角器【小竹貝塚】

富山ヒストリーチャレンジアップ事業

■ 県民考古学講座

考古学の入門から近年の発掘調査成果まで、当センター職員のほか、著名な講師を迎え、分かりやすく解説する講座です。令和6年度は、7月より全6回の開催を予定しています。

■ 出前授業・出前埋文センター

学校や地域の施設に本物の出土品を持参します。出土品に触れたり、地域の遺跡についての解説を聞いたり、火起こし・まが玉づくりの体験ができます。詳細は、お問い合わせください。

■ 体験教室の開催

おとなも体験できる 考古学体験教室を開催します。

開催日▶ 通年
定員▶ 各回20名程度
対象▶ 小学生～成人

※詳細は、HP等でお知らせします。

■ ワクワク体験教室

親子で楽しく学ぶ考古学教室です。大型まが玉づくりや藍染など、先人の技を学び、体験します。

開催日▶ 7月下旬～9月上旬
対象▶ 小学校4～6年生とその保護者

※詳細は、6月に小学校に配布するチラシでお知らせします。

■ こども考古学講座

小学生を対象とした考古学講座です。

開催日▶ 夏休み期間中(3回開催)
対象▶ 小学校4～6年生

※詳細は、6月に小学校に配布するチラシでお知らせします。

■ 考古学少年団

ちょっと専門的に、富山の遺跡・出土品、報告書を作る上で必要な作業など、考古学の専門家の指導で学ぶ講座です。

開催日▶ 通年(10回程度開催)
対象▶ 小学校6年生～
中学校3年生

※詳細は、チラシやHPでお知らせします。

古写真発掘!—《20》



やす だじょうあと 安田城跡 (国指定史跡)

昭和52年(1977年)撮影 富山市婦中町安田

安田城跡は、標高12m、神通川支流の井田川左岸の自然堤防上にある中世の平城です。天正13(1585)年に羽柴(豊臣)秀吉が佐々成政を攻めた際の秀吉の本陣となった白鳥城(城山)の支城であったとされています。

平城だったので、戦乱の世の後には田畑となり、ひっそりと守られてきましたが、昭和52(1977)年に同地区でのほ場整備事業が計画された際、城郭研究者から金沢市立図書館に「安田古城之図」が保管されている旨の情報提供を受け現地を確認したところ、水田の畦畔に、本丸・二の丸以外の郭の名残があることが判明し、急ぎ試掘調査を実施することとなりました。

調査の結果、堀跡などを確認し、全国的にも貴重な中世の平城として、昭和56(1981)年に国の史跡に指定されました。その後、平成2~4(1990~1992)年度にかけて立派な水堀に囲まれた姿に整備され、地元の方々に親しまれ続けています。

上の写真は、手前が下条池田川で南から撮影したものです。下は、本丸跡を中心に全体を北東方向から撮影したものです。奥には北陸自動車道が見えます。



整備後の安田城跡 (上空から)
(富山市教育委員会提供)

編集後記

本誌4~6ページに掲載している、富山大学の高橋教授の記念講演を聞き、学生時代に古墳を発掘したり、アルバイトで遺物の図面を描いていたことを思い出しました。古墳の話で独特の「北優位」(葬られた人が北枕のことが多い)などウン十年ぶりの言葉にも刺激され、久々に古墳時代に関する名著を読み返そうと思っています。まずはその本がどこにあるかを探ることからですが…。(担当 青山)

富山県埋蔵文化財センターニュース「埋文とやま」VOL.166

令和6年3月29日発行 編集/富山県埋蔵文化財センター 〒930-0115 富山市茶屋町206-3 TEL076-434-2814
URL <https://www.pref.toyama.jp/3041/miryokukankou/bunka/bunkazai/maibun/index.html>

